

第2学年 総合的な学習の時間・国語科 学習指導案

熊本市立天明中学校 教諭 大村 祥代

1 単元名 広島・京都・奈良への旅を通して学び考えたことについて、魅力的な提案をしよう

2 単元の目標

・原爆の恐ろしさやもたらされた悲劇、日本の伝統的な建造物の建築上の工夫や、街並みを守るための人々の工夫などを理解し、資料を示してプレゼンテーションすることができる。

(知識・技能)

・図書資料や他教科の学習資料、新聞記事や公式ホームページなどを基に、原爆に関わることや伝統的な建造物の構造、街並みの特徴などについて調べ、これからの生活の中で取り組んでいきたいことを考え、それをわかりやすく伝えることができる。 (思考・判断・表現)

・原爆や日本の伝統文化について積極的に調査し、講師・現地ガイドなどの話を真剣に聞き、平和な世界をつくることや日本の伝統文化を守っていくことについて考えたことを他者に提案することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 題材観

本題材では、国語科の「相手の立場や考えを想定し、資料や機器などを活用して印象に残る提案をする」ことを、総合的な学習での修学旅行に関わる活動と関連付けて取り組む。修学旅行では、社会生活や集団生活での「きまり」の大切さを理解し、協調性や公衆道徳性を高めるとともに、友情と信頼、そして、協力の意義を体感することの他に、広島に残る戦跡の見学や講話を聞くことで、戦争の悲惨さや平和の尊さを学習すること、古都を見学することで、古くからの知恵や文化に触れ、日常生活を見つめ直す機会とすることを目的としている。事前学習を踏まえ、実際に旅をした中で感じ取り考えたことを提案するので、より実感を込めて、実際に行ったからこそ示せる資料を提示して、相手の心を動かす提案をすることができると考えられる。

旅をするにあたり各自で事前調査を行うことで、興味関心の深まりが期待できる。また、旅行直前に講師を迎えて被爆体験講話を聞いた上で広島を訪れることで、眼前の原爆ドームの無残な姿に触れた時、講師の思いを理解することができると考えられる。京都での班別自主行動の計では添乗員の方から説明を受け、他者と協力して調査を重ねて見学地を選定していく中で、専門家に質問したり、根拠を基に他者と意見を交換しながら合意形成を行ったりする中で、コミュニケーションのスキル向上も図ることができる考える。

(2) 生徒観

2年生は社会科の学習において広島や京都・奈良について学習している。小学6年生の時に長崎を修学旅行で訪ねており、平和学習の経験もある。また、これまで根拠として絵や具体的な調査結果を基にした説明文を国語科で学習しており、根拠を示しながら意見文を書く活動を行ってきた。しかし、根拠と意見をうまく結びつけることができず、活動そのものを敬遠しがちな生徒が見られ

た。今回は実際に調査し、現地で体験したことを基に提案をすることができるため、班のメンバーと協力しながら自分事として考え、意欲的により実感をもって取り組むことができると考えられる。

世界で紛争が起こる今日、改めて平和について考え、母国が誇る伝統文化に目を向け、自分たちの考えを他者へ提案することは、互いの行動変容につながる学びとなると考えている。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、現地についての調査を各自で行わせたい。歴史、伝統文化、衣食住、産業など多岐にわたって関心のあることを、タブレット端末や図書資料、新聞記事などを活用して自由に調査しまとめ、他者と共有する場を設定し、意欲向上の場としたい。

次に、京都の班別自主行動については添乗員さんを、平和学習については熊本在住の被爆体験者をそれぞれ講師にお招きしてお話を聞き、情報を収集・整理し、質問も積極的に行うことで理解を深めさせたい。班別自主行動の計画においては、他者の考えを理解し、協力して合意を形成する場としたい。そして、調査体験を通して感じたことを班でまとめ、今、自分たちにできることは何か根拠を示しながら提案し、持続可能な活動へとつなげたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の観点（見方・考え方）

多様性：奈良や京都には大切にしていきたいものや、残していきたい日本の良さがいろいろある。

連携性：平和や環境の維持など個人でできることのほかに、みんなで力を合わせてこそできることがある。

責任性：平和と自然を守り、これまで受け継がれてきた大切なものを引き継ぎ、次へとつなげていく使命がある。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

○未来を予想して計画を立てる力：

歴史を知り、今を考え、どうすれば皆が望む平和な未来になるかを考える。

○コミュニケーションを行う力：

被爆体験者や現地の方の考えを聞き、友達や身近な人に発信したりしていく。

○進んで参加する態度：

調査や提案、提案事項を継続するために自ら行動する。

○他者と協力する態度：

班のメンバー全員で協力して提案し、聞き手と共に、提案事項を守りつなげていく。

・ 本学習で受容を促す ESD の価値観

○自然環境、生態系の保全を重視する。

○人権・文化を尊重する

○幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

・達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられるまちづくり

1 6 平和と公正をすべての人に

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①原爆や日本の伝統的技術、守るための人々の工夫などを理解する。</p> <p>②伝えたいことを明確にしたうえで、資料や機器を効果的に使ってプレゼンテーションすることができる。</p>	<p>①集めた情報を収集・整理し、これからの生活の中で取り組んでいきたいことを考えることができる。</p> <p>②分かったことや考えたことを、機器を使ってわかりやすく伝えることができる。</p>	<p>①積極的に調査し、講師・現地ガイドなどの話を真剣に聞くことができる。</p> <p>②平和な世界をつくることや日本の伝統文化を守っていくことについて考えたことを、主体的に他者に提案することができる。</p>

5 単元の指導計画（全 10 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>1 修学旅行について概要を知る。</p> <p>2 広島・京都・奈良について各自で調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料やタブレット端末等を活用して各自で調査しよう。 ・ロイロノートを活用して調査した内容をまとめ、互いの情報を共有しよう。 <p>3 班別自主研修の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・添乗員さんからの説明を受け、班ごとに計画を立てる。 ・班別自主研修の班のテーマを決める。 <p>f</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに行くか。順路は適切か。 ・距離や時間配分は適切か。 <p>4 佐々木禎子さんについて学習し、原爆について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VTR を視聴し、図書館資料・タブレット端末を活用した調査内容をロイロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使い、視覚的情報を添えながら説明する。 ・タブレット端末だけでなく、図書館資料など多様な方法での調査を促す。 ・ガイドブック見方やタブレット端末を活用して経路検索や所要時間などを調べるよう促す。 ・様々な建造物や重要文化財が多数あることや注目ポイントを他教科とも連携して補足する。 ・テレビ局が作成した佐々木禎子についてまとめたVTRを準備する。 ・講師から事前指導用にいただいた映像資料を活用する。 	<p>△ア①</p> <p>△イ②</p> <p>△ウ①</p> <p>△イ①</p> <p>△ウ①</p> <p>△イ②</p> <p>△ウ①</p>

	<p>ノートにまとめる。</p> <p>5 被爆体験者の講話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問をして理解を深める。 <p>6 現地に赴き、現地ガイドの話聞き、各地を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守りつつ見学する。 ・現地の方に直接質問して理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原爆への調査を踏まえ、講師に質問したい事柄を考えさせる。 ・メモ用紙を事前に配布し、メモを取りながら講話を聞くよう促す。 ・気になったものなどを、タブレット端末を活用して記録に残すよう促す。 ・分かったことや感想を速やかにしおりに記入させる。 	<p>△ウ①</p> <p>△ア①</p> <p>△イ①</p> <p>△ウ①</p>
2	<p>7 プレゼンテーションを作成し、提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに、提案したい内容を整理し、分担して5分以内にまとめる。 ・平和な世界の構築や伝統文化の継承に努めようと、相手に思ってもらえるような資料や説明内容を考える。 ・Keynote を活用して提案する。 ・原稿を読むのではなく、実感したことなど内容を補足しながら話す。 <p>8 本単元の学びを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わる話の構成だったか。 ・資料や機器を効果的に使えたか。 ・相手の反応を意識しながら話ができただか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が興味を持って聞き、共感して共に動こうと思う提案となるよう、提案の仕方を工夫させる。 ・これからの生活につながる提案となっているか気をつけさせる。 ・提示資料は、写真やイラストなどを使って必要最低限の情報に絞り、見やすい簡潔な提示になるよう留意させる。 ・提案を基に、自分なりに考え、できるところから実践してみるよう伝える。 	<p>△ア②</p> <p>△イ①②</p> <p>△ウ②</p>